



藤 賢一 Kenichi Toh

福岡地所(株)取締役  
1949年福岡県生まれ。  
1968年福岡高校卒業。  
1973年慶應義塾大学法学部法律学科卒業  
同年福岡地所(株)入社。  
入社後、ホテル建設、ネクサスシリーズなどの住宅  
開発の都市開発事業を担当する。  
その後、キャナルシティ博多の開発・運営、リバー  
ウォーク北九州の総合プロデュース・運営、マリ  
ノアシティ福岡の運営に専任。  
現在、国内外の商業プロジェクトのプロデュース  
やコンサルタント業務も手掛け、2008年南京にお  
いて総合プロデュースした南京水遊城を開業さ  
せ、運営指導を行う。

### 都市景観の歩みを語り、未来を考える。

これまでの都市景観賞受賞者に、受賞作品が生まれた経緯や時代背景、景観に対する配慮などにつ  
いて語っていただき、参加者の皆様とともに、過去の都市景観賞を振り返り、福岡の都市景観の未  
来を考えるシンポジウムを昨年の春・夏の2回にわたり、『九州大学大橋サテライト』(福岡市南区)  
において開催しました。

### 求める情熱が動かす未来。

第2回目は、前回の開催から1カ月  
余りを経た7月3日。コメンテーター  
に『ネクサスワールドオスカー・トゥ  
ク棟』(第8回受賞)、『キャナルシティ  
博多』(第10回受賞)などを手掛けられ  
た福岡地所から藤賢一氏を迎えて  
行ったシンポジウムにも、前回と同じ  
く多くの市民の皆さんが集まりまし  
た。



「商品」と「デザイン」の両立に情  
熱を傾け取り組んできたという藤氏  
は、『海の中道ホテル』『ネクサスシリ  
ーズ』『キャナルシティ博多』などの開発  
秘話を披露。『海に抱かれた博多の美し  
さを再発見してもらうこと』『海の中道

山北さん

工藤さん(福岡市西区)

福岡は「警固公園」など、都会の中でも緑が豊  
富な場所が多く、落ち着ける街だと思ってい  
ましたが、今回の講演を伺って、普段目にし  
ている建物や、水辺のデザインへの関心が新  
たに高まりました。また参加したいです。

山北さん(福岡市西区)

「都市景観賞」は以前から耳にしており興味  
がありました。特に印象に残ったのはキャ  
ナルシティをはじめ、当時の新しい取り組み  
についてのエピソード。福岡の景観のあり方  
などをあらためて考える良いきっかけになり  
ました。

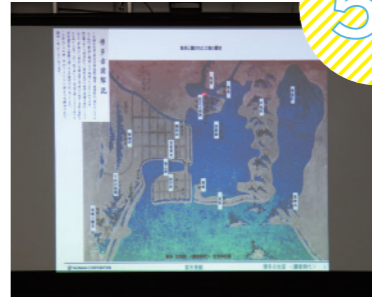
### 参加者の声

## 福岡市都市景観賞 Fukuoka Urban Beautification Awards Symposium 2012 アーカイブシンポジウム

### 海や大陸に 向かっている都市、福岡。

第1回目のシンポジウムは、5月29  
日に開催。コメンテーターには『アクロ  
ス福岡(第12回受賞)』『福岡パルコ』(第  
24回受賞)などを手掛けられた竹中工  
務店から青山昭氏にご登場いただき  
ました。

幼い頃、筥崎宮は遊び場の一つだっ  
たという青山氏は、参道の正面に広が  
る海に夕日が沈む景観を通して、「福岡  
は大陸に向かってるんだ」と感じた  
といいます。その光景は「原風景」とし  
て刻まれ、その後も古地図をひもとく  
などして福岡の「生い立ち」を知るに  
連れ、福岡が「海や大陸に向かってる  
都市」であるということをあらためて



青山 昭 Akira Aoyama

竹中工務店九州支店 嘱託(コーディネーター)  
九州産業大学芸術学部空間デザイン学科  
非常勤講師  
1950年福岡市生まれ  
1969年修猷館高校 卒業  
1973年九州大学工学部建築学科卒業  
同年竹中工務店入社  
1974年同九州支店設計部配属  
1977年全国建築士会連合会建築設計競技  
(傾斜地の研修施設)金賞受賞  
1984年天神幸ビル(オフィスグリーン賞受賞)・(福  
岡市初 総合設計制度導入)  
1985年KBCビルの設計  
2001年岩田屋新館の実施設計  
2009年福岡パルコの設計監修、他  
2009年竹中工務店九州支店 専門役  
2011年より現職

実感したのだそうです。  
また、これまでの福岡の景観  
の歩みについて振り返られた中では、  
戦後復興の象徴ともいえるべき建物と  
して『天神ビル』を挙げ、  
「今でも新しいと感じ  
るデザイン」と評され  
ました。その上で、景観づ  
くりを考える際の思いとして「9割は  
整然と建てられたもの。しかし1割は  
時代を牽引する象徴的なものである  
こと」が大切なのではないか、その思い  
のもと『KBCビル』『アクロス福岡』  
『福岡パルコ』といった建築物の設計や  
監修に当たったと述べられました。「良  
い建物が良い景観をつくる。天神ビル  
のような時代を超えた存在感を醸し  
出す建物が福岡にはある」と青山氏。  
「これからは物流でなく、人の流れを意  
識した景観づくりが求められると思  
う。さらに福岡は、そこに海への視点を  
加味することが重要であり、現在特に  
注目しているのが博多湾のあり方。今、  
福岡は都市づくりの方向性を考える  
時期に来ている。先頃のオリンピック  
誘致はその良いきっかけになったと  
感じる。今後とも過去を振り返りながら、  
福岡の未来を見極めていきたい」と語  
られました。

山本さん

山本さん(福岡市東区)

「天神ビル」の工法に関する話には強烈なイ  
ンパクトがあり、天神ビルを見る目が変わり  
ました。建物の歴史を振り返りながら福岡の  
まちの歴史を知ることができるシンポジ  
ウムは有意義でした。またぜひ参加したいです。

阿部さん

阿部さん(福岡市東区)

『ふくおか市政だより』を見て興味がわか  
きました。「岩田屋」から「福岡パルコ」への  
“化粧直し”の話が印象的でした。福岡のまち  
づくりに関心があるので、そのまちへの愛着  
を深める機会が得られて良かったです。

### 参加者の声

### May

### 第1回

### July

### 第2回

